

米国 ～利上げへ秒読み～



経済調査部 主任エコノミスト 桂畑 誠治(かつらはた せいじ)

FRBは現在世界経済減速の影響を見極め中

FRBは9月のFOMCで、世界経済減速や金融市場の混乱を背景に経済活動とインフレの見直しに対するリスクが高まっていると判断、利上げの見送りを決定した。10月についても、利上げは「労働市場のいくらかの更なる改善を確認し、インフレ率が中期的に2%の目標に向かうと合理的な確信を持ったとき」に実施するとし、ドル高、世界経済減速、原油価格下落等の米国経済への影響を見極める姿勢を示した。

景気・雇用しっかり

10月のFOMC後に公表された経済統計は、総じて好調である。7-9月期の実質GDP成長率は前期比年率+1.5%と4-6月期の同+3.9%から減速したが、国内最終需要は前期比年率+2.9%と高い伸びを維持した。海外経済の鈍化によって輸出は減速したものの、個人消費は増加が続き、国内需要が堅調さを維持していることが確認された。また、10月のISM景気指数が前月より改善し、10-12月期に入って経済活動がより活発化していることが示された。

雇用面をみると、10月の非農業部門雇用者数(季節調整済み)が、前月差+271千人(前月同+136千人)、民間

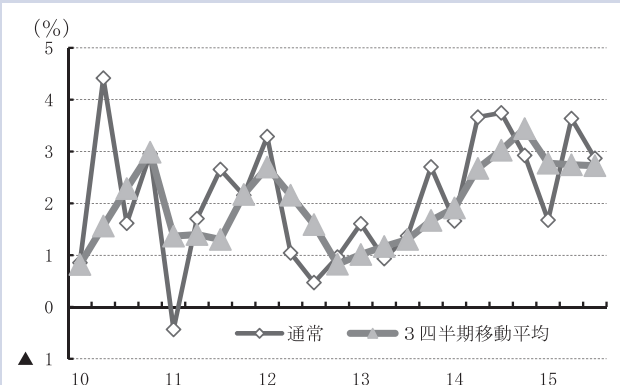
部門雇用者数が前月差+268千人(前月同+149千人)と大幅に加速した。また、10月の失業率(U3)は、5.04%(前月5.05%)とほぼ変わらず、08年4月(4.967%)以来の低水準を維持した。広義の失業率(U6)は9.8%(前月10.0%)と、引き続き高い水準ながら、大幅に低下した。総じて、労働情勢の改善が続いていることが示された。

こうした労働需給の改善は、所得環境の改善に繋がっている。所得環境を示す統計をみると、労働投入量が前月比+0.3%と増加に転じたうえ、賃金が前月比+0.4%と加速しており、10月の雇用者所得は増加ペースを速めたとみられる。また、ガソリン価格の下落や借入環境の改善が続いたこともあり、個人消費は堅調さを維持すると予想される。

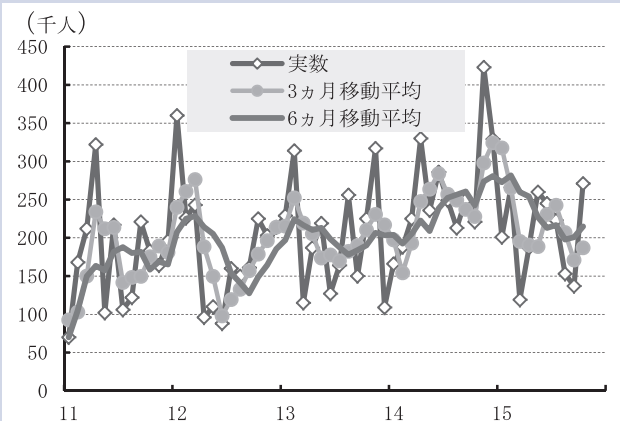
利上げへ秒読み

国内需要が堅調さを維持するなど、世界経済の減速、一段と進んだドル高・原油安等の米国経済成長への影響が限定的であることが、確認され続けている。また、金融市場は各国での景気対策期待等を背景に落ち着きを取り戻している。このような経済・金融情勢が年内継続すると見込まれるも、FRBは12月15、16日のFOMCで利上げを決定すると予想している。(11月10日執筆)

資料1 実質国内最終需要の推移:前期比年率



資料2 米国非農業部門雇用者数(前月差)



内外経済ウォッチ

(出所)米商務省

(出所)米労働省データ